

固定資産税と土地利用との関係についての調査・研究（中間報告）

神戸大学大学院経済学研究科准教授

宮崎 智視

2017年4月より貴財団の「海外留学助成」を得て、カリフォルニア大学アーバイン校（University of California, Irvine, 以下 UCI と表記）に客員研究員として滞在しています。助成のテーマは、固定資産税が土地利用に与える影響に関する日米の比較研究です。このたびの滞在にあたっては、同大学の Amihai Glazer 教授に受入を受諾して頂き、かつ Glazer 先生からは都市経済学の第一人者でもある Jan Brueckner 教授もご紹介頂きました。Brueckner 先生からは研究についてご助言を頂く旨ご了承頂いており、本研究の成果がある程度まとまった段階で研究のディスカッションに伺う予定です。

UCI は 1965 年設立と、アメリカでは比較的新しい大学ですが、カリフォルニア大学のグループの中でもロサンゼルス校、バークレー校、およびサンディエゴ校の次に位置づけられる大学です。研究部門(school)の数も 10 以上に上ります。私はその中の一つである School of Social Science の、Department of Economics（以下、Econ Department と表記）に所属しています。研究室は、School of Social Science Building の一室を貸与されています。

写真 1. UCI での研究室（荷物入荷前）



Econ Department はいわゆるクォーター制度を取っており、2017年の春学期は4月から6月になります。春学期には、研究セミナーに参加するほか、いくつかの講義にも出席しました。財政・労働に関するワークショップでは財政関係の実証分析の研究報告に主として参加し、今後トップジャーナルに掲載されるであろう研究に触れることができました。アメリカのデータを用いた研究が中心ではありますが、日本にも十分適用可能なのではと思われるものもありました。

講義では、マイクロ計量分析に関わる講義とビッグデータ分析の講義に参加しました。いずれも財政学・公共経済学の研究では重要な分析手法ですが、経済学研究の「先進国」たるアメリカの第一線で活躍する同年代の研究者から、先端的な手法を学ぶと同時に、彼らの考え方や研究への姿勢にも触れる貴重な機会として活用できました。いずれも、今回の調査研究の特に分析手法に関連する講義でありますので、できるだけ取り入れた分析も行いたいと考えています。

キャンパスの様子を紹介したいと思います。写真2はキャンパスのメインストリートです。授業期間中は多くの学生が行き交うのですが、昼休みは多くの模擬店が出店するなど、さながら学園祭のような雰囲気を醸し出しています。また写真右の建物は International Student Center (以下、IC と表記) であり、留学生だけではなく私たち外国人客員研究員のケアにも当たっています。IC は留学生・外国人客員研究員を対象としたイベントも企画しており、様々な文化に触れることと、英会話の練習も兼ねてなるべくイベントにも参加するようにしています。

写真2. キャンパスのメインストリート (4月撮影)



写真3はキャンパスの中心に位置する Aldrich Park です。UCI のメインキャンパスは、この Aldrich Park を取り囲むように円状に広がっています。平日には学生の憩いの場になっていることは勿論、学生のサークルのイベントが行われることもあります。6月に修了式を迎える学生たちの中には、ここで卒業記念写真を撮る人もいました。また、キャンパス内には門などはなく、基本的に誰でも自由に出入りできます。このため休日にはピクニックを行う家族連れも見られるなど、周辺の住民にとっても行楽の場となっています。自然豊かな様子は勤務先の六甲台キャンパスを思い起こさせるもので、その意味では日本と同じような環境で研究生生活を送ることができています。

写真3. Aldrich Park



本中間報告は、公益財団法人租税資料館の、平成29年度海外留学助成に基づいたものです。貴財団からのサポートのおかげで、これまでの当地での研究生生活が比較的充実したものであったように思われます。研究助成に採択して頂いたことにお礼申し上げますと同時に、残り半年の滞在期間で十分な成果を挙げたいと考えております。